

○17番（小池一哉君）〔登壇〕

おはようございます。松尾初秋議員のすばらしいテンポの一般質問の後で、何か緊張をしておりますが、まず冒頭、学校給食ということで通告をいたしております。学校給食の通告ですので、食育が主じゃないかなという執行部も考えがあったようですが、実は私も学校給食費の未納の問題を通告しておりましたので、ほとんどが初秋議員とかぶってしまいました。昔で言うぎ、魚とるときの後浮立みたいな感じで、もう全部よかところの分は松尾初秋議員がほとんど持っていかれたというような感じで、何ばしゃべろうかなということで、しかもその次やったけん、シナリオば書き直す余裕もなかったわけでございまして、たまたま出ました就学援助、すばらしい制度だと思っております。これが205名とか小学校で170名程度に就学援助が行われているという先ほどの答弁をいただきましたので、学校給食費の徴収、そのあり方と、要するに銀行振り込みなのかP T Aの役員さんが徴収に回られるのか、そのときの状況と、就学援助をいただいている家庭に、「就学援助やけんが、学校給食費は免除してあるけんが、あそこには取りや行かじよかばい」とか、そういうことをたびたび聞いたものですから、そういうこともいじめ等の遠因にもいっちょなっとっじゃなかですかというような感じがしたものですから、教育長のわかる範囲で結構です、答弁をまずお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

○庭木教育長〔登壇〕

学校給食費の徴収のあり方だと思いますが、これにつきましては、各学校の給食運営委員会によって、銀行振り込みであったり、あるいは各徴収員さんでお願いをしたりと、いろいろあるようでございます。それから、就学援助のことでございますが、一応各学校では年度初めに委任状をいただきまして、この給食費につきましては、学校で引き落とししていただくというようなことでお願いをしております。ただ、あその家庭はこうでございますというようなのは、各学校の実情において行っているところでございますが、引き落としというもの非常に浸透をしております、そのあたりのトラブル等については、私どもとしては報告等は受けておりません。

○議長（杉原豊喜君）

17番小池議員

○17番（小池一哉君）〔登壇〕

わかりました。北方の場合は、各P T Aで役員さんが集金というんですか、徴収というんですか、回られますので、よろしく御協力をくださいという文書が回っておったです。そのときに、うちの隣の息子が会長だそうです、たまたま。そこに地区の役員さんが持ってこられて、それを学校給食センターかどこかにまとめて持っていくということだそうです、き

のうきょうの問題じゃなかですが、やっぱりオール振り込みにしたら、そういうこともなかと思います。あそこは取りや行かじよかばいという、せっかくよか制度があって、それが今度は逆に子供の心ば傷つけよるという懸念があったものですから、じゃあオール振り込みにするぎよかろうもんというぎ、やっぱり収納率というですか、これがごとっと落ちるというようなことも聞いておりますので、なかなか大変ですが、この義務教育の中で、給食の未納の問題が出てきたときに、ばーっとマスコミに出てきましたね。そのときに、もう少し突っ込んだ各新聞社なり教育界の方たちの詳しいコメントが後続くかなと思って楽しみに――楽しみと言ったらいかんですが、しっかり新聞どん読みよったですが、柳沢さんですか、あの機械発言が飛び出して、もうマスコミはほとんどそっちに飛びついてしもうたということで、本当に義務教育の中で、本当にそこまで突っ込んだ議論が交わされているのか、これは市長に聞きたいんですが、やっぱり産む機械発言、それから、今度の学校給食の未納の問題も、やっぱり底流にあるのは少子化の問題だと思うんですよね。そういった中で、やっぱり北海道の三笠市ですかね、あそこなんかは小学生までは極端に少子化になって、小学生はオール無料にしたよというような事例も挙がってまいりましたので、市長の義務教育――学校給食法という立派な法があって、それに基づいて武雄市は学校給食を食べさせているわけですので、そういった中で、厳しい財政の中で、こうこうというようなことも簡単にできませんが、学校給食に対する市長の考え方をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私の学校給食に対する思いは大きく分けて2点あります。

1点目は、衣食住の中の最も根幹になるものだというふうに思っております。昼御飯やけんですね。そういうことで、衣食住については、これは基本的に家庭の責任、親の責任だというふうに思っています。そういう意味で、今全額親御さん、保護者が負担をしようと。これは、衣食住はもう全部自前ということからすれば、それはもうあるべき話かなと。だから、それを払えない家庭、児童については、先ほど答弁があったようないろんな就学援助があるというふうに考えています。

その上でもう一つ大事なのは、給食を見たときに、余り化学調味料は入れんといったこと、あるいは地元のものは地元でやっぱり新鮮なまま食べるということ、これが今後、給食に求められることではないかというふうに思っております。そういう意味で、今教育委員会が非常に協力的にやってもらっていますので、感謝しておりますけれども、向かう方向はそういったことを今考えております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

17番小池議員

○17番（小池一哉君）〔登壇〕

わかりました。私も何ですか、衣食足りて礼節を知るという故事もございます。そういう時代に来ているにもかかわらず、前出の初秋議員の質問の中には高級車を持ちながらも払わぬ人間もおるとか、義務教育やけんが学校が出すとがほんなごとくさ、市が出さじにゃと、そういう暴論もまかり通っておりますが、市長の基本的な考えを聞かせていただきました。ありがとうございました。

あと教育長、これは通告しておらんやっただけんが言いにつかばってんですよ、北方町で——北方町の、山内の、武雄のと言ったらおかしかですが、5日間学校を休んだら給食費は返還していたそうです。5日間続けてですね、月曜日から金曜日まで。そして、土日が休みですから、7日間ぐらいただたら少々の病気もようならうということの配慮で5日間ということで、5日間連続して休んだ場合は給食費を返還しますよというようなことをやったそうですが、武雄市に入りまして7日間ということ、これも隣の息子から聞いたわけですが、7日間ということは、9日間病気せんばいかんということでしょう。いやいや、病気せんばいかんと言うぎおかしかですね。ここんたいの根拠、これがもしわかれば……（発言する者あり）それは後で結構ですので、通告しておりませんでしたので、後でわかりましたらよろしくお願ひしたいと思います。

ほとんど初秋議員が学校給食については述べられましたので、そいぎ、百姓のことも何も学校給食で言わんかと言われても気色の悪かですから、市長、8月号、武雄市の子供が大きく口をあけて白飯ばがっぱい食いよっ写真ですが、（市報8月号を示す）この市報、ずうっと楽しく読ませていただいております。それから、この表紙も楽しくいつも、今度はどがん表紙やろうかなということで。みこしの写真もありました、おしくらまんじゅうもありました、それからいろんな、このスタッフには敬意を表しておりますが、今度は、ことしの「広報たけお」の表紙の中で一番よかとはどいば選ぶかということをやっと聞いたところが、ほとんどがこれやったです。これがやっぱりことしの白眉だろうということで、よしということで、これは質問じゃなかです、私の報告をしておきたいと思います。

こがんうまか飯ば、まだうまかとのあるというとは説明をしたいと思いますが、ことしの佐賀県の共乾の、6月の議会にも言ったと思います。それは17年度やったです。18年度の米の食味コンテストのナンバーワン、朝日です。それから、余り手前みそで言いにつかですが、2番が橋下です。これはもう前回20位以下やったとが、赤丸急上昇でいきなり2番ということです。そして、3番が橘です。武雄市だけで、佐賀県で140何カ所ある共同乾燥調製施設の中の1位、2位、3位、そして、去年は山内が2位やったですもんね。若木はごっというごと、あそこは清流米ということで、もう完全なブランドをとっておりますから、そういう立派な米がありますので、あとはお任せします。

次に行きます。

これも通告しておらんやったけんですね。県道の交通安全施策についてということで、武雄福富線、ここにもう図説が来ておりますので、この進捗状況を担当部長、よろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

○大石建設部長〔登壇〕

お答えを申し上げたいと思います。

議員の皆様方の方にも交通安全対策ということでお配りをしていると思います。それを拡大したのがこれですので、（地図を示す）ちょっとこれを置きながら説明をさせていただきたいと思います。

ここにありますとおり、平成19年度で整備が完了いたしますのが、この緑で皆さん方の方に図示をしているJA給油所、今現在これはなくなっておりますが、これとJA橋下支所の中間あたりのところまで平成19年度完了ということになっております。それから、その先から橋下駐在所を通過して大渡簡易郵便局の手前の辺まで、ここら辺まではかなり広く、歩道もついております。それで、御指摘の未整備区間というのが、蔵堂地区で約400メートルございます。この分がまだ事業化もなっておりませんし、未整備ということになっております。今申し上げましたように、平成19年度までにこの分については、この未整備区間を除いては大体歩道の整備がなされるということになっております。

この蔵堂地区につきましては、平成18年2月に地元の方から整備の要望書が提出をされておりますので、県の方にその時点で進達をいたしております。事業計画につきまして現在問い合わせをしておりますが、平成19年度事業化に向けて、測量などの調査費の予算要望を現在出しているということでございます。今後もそれがスムーズに行くように、県に対して引き続き早期事業化の要望をしていきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

17番小池議員

○17番（小池一哉君）〔登壇〕

わかりました。ここはもう市長さんもたびたび通っておわかりと思いますが、歩道の設置もありますが、本当に70センチ程度で、ほんなごて一番最初、小柳議員が高齢者の交通事故等について質問をしていただきましたが、ちょうど簡易郵便局がございまして、やっぱり年金とかその時期になりますと、ばあちゃん、じいちゃんがいっぱい老人カーというのですか、あいば押して行きんさあばってん、危のうしてということです。こういう鳴瀬からきれいに改修ができましたので、すごい車の量です。かつては我々もゆったりして暮らしていたのが、

とてもじゃないというぐらいの車の量でございます。19年度に調査費がつくということでございますので、もう10年も前から、その地区の公民館なんかは、ちゃんと来るとを前提に引いてつくってあるわけですよ。今度新築なされたところも、どうせ来るといばのうということで、協力せじにゃということで、ちゃんと引いて家もつくって、その地区の区長さんが一生懸命になって、今度はこっちが済んだけん一遍に県もし切らんもんじゃ、こっちものうということで、そこの地区の区長さんが一生懸命頑張っておられましたが、1月に急逝をなされました。後は次の区長さんなりが一生懸命になって頑張っておられますので、これは調査をして、やっぱり四、五年かかっですもんね。簡単にはいかんと思いますが、ひとつよろしくお願いしたいと思います。

次、国道、バイパスの件です。34号線のバイパスの期成会を1市2町でやっておりますが、今の進捗状況がもしわかれば。といいますのが、特に34号線のあの太崎から高速のおり口の朝夕のラッシュ、これはもう市役所の幹部の職員さんたちもたびたびそういう目に遭っておられると思いますが、あいつ何とかしゅうやっか言うて始めたのが、北方の34号線のバイパスの最初のはしりでございまして、大町にすれば、今度はそのバイパスを利用してまちづくりまでという話で、しかも六角川がある、工場がある、鉄道があるということで、なかなか遅々として進まないという状況でございますので、現在の進捗状況でもわかれば、お願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

○大石建設部長〔登壇〕

現在の進捗状況ということでございますが、平成16年度から路線選定などのバイパス建設に向けて、佐賀国道事務所、それから、先ほどおっしゃいましたように、江北町、大町町、それから、旧北方町ですね。現在武雄市の行政による意見交換会、それから、現地踏査を実施して、現地の実情を確認してきておるところでございます。

この中で、佐賀国道事務所ではいろいろな調査をせんといかんということで、一つは冠水地区であるということから、洪水対策とか内水対策、それから、軟弱地盤関係でその調査、それ以外には自然環境の関係、現国道の渋滞箇所がどういうふうになっているのかということ、それから、歩道の未整備区間がどういうふうになっているか、そういったものをすべて調査してやっていくということで、現在そういったものが逐次実施をされておるところでございます。

それから、先ほど言いましたように、意見交換会を開催いたしてございまして、それと同時に佐賀地区の建設関係合同の期成会等々で提案活動を行っておるところでございます。これまで年2回だったのを年3回にふやす、それから、県の方の支援が非常に不可欠であるということから、県の方にも今年度から提案活動を実施するというようなことで強化をしております。

ますが、まだ実際のところ、そのところの事業採択とか事業決定とか、そういったところにはまだ至っていないのが実情でございます。ただ、このことにつきましては、前々から言われておることでございますので、早期事業化に向けて今後も協議をしながら進めていきたいというふうに思っておりますのでございます。

○議長（杉原豊喜君）

17番小池議員

○17番（小池一哉君）〔登壇〕

私たちが聞く範囲では、大体北方はよかばいと、大町はどがんもさるんみゃあもんと、どこば行くとやということですよね。でも、やっぱり大町は六角川を渡っていってもろうたら、我が町がますます寂れるけんというようなことで、絶対大町のトップはそれを考えるとが当たり前と思うですよ。やっぱり新しい道路網に新しいまちづくりをと考えるのは、それはもう首長なり議会なりが考えるとが当たり前ですが、今の状況では、私はもうお先真っ暗じゃなかかにゃと思うとですよ。もうほんなごて朝晩のラッシュ、緊急車両が入ってきたときにはパニックになっているとですよ。そういうこともたびたびあっております。市長、この前の質問で道州制が絶対来るばいと市長はおっしゃいました。思い切って目先ば変えて、これはあそこんたいから北方の環状線のあるところんにきから真っすぐ橋下の県道さんつなぐごたっ考えはなかですか。どうせ将来は道州制——がんとやうぎ大町の議員さんたちから袋だたきに遭うごたばってん、真っすぐ、もうどっちみち県道ば思い切って引っ張って、さっき部長がおっしゃったように、飛行場までのアクセス道路という観点からも、そういうふうに細う細う考えんで、もう思い切った発想が市長ならできるんじゃないかと思いたすので、市長の考えをよろしく。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

国道34号線で、小池議員案は南の方を通る案ですよ。こがんなぎんた、六角川ば2回通らんばいかんわけですね。となるぎ、低背地ということと、もう一つが、そこに橋のかかけんが、どうしてもコスト、維持管理が賄い切れるかというのが、多分国交省からそれは言われるというふうに思っております。それで、ちょっといろいろ小池議員から御指摘がありましたので、考えてみました。一つ、これ、ちょうど陣内孝雄参議院議員がいろんなところでおっしゃられていることでもありますけれども、今の34号線の拡幅はできないかと。これがぱっと自分もそういうふうに思って、それば聞いたときに、今の3自治体の案よりはそちらの方が早かとかやなかかなというふうに思い始めてきました。そうすれば、先ほどおっしゃられた大町の町長さんも、多分この案には乗れるというふうに思っております。そういう意味で、きょうも議会から小池議員から御指摘がありましたので、今度の協議会では、私の

意見としてその旨を伝えて、一日でも早くあの辺の交通渋滞の緩和を図っていききたいと。です。もう少し、ちょっと何案か現実的な案をもう少し議論させていただければありがたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

17番小池議員

○17番（小池一哉君）〔登壇〕

わかりました。今の国道の拡幅ですね、それが一番ベストと私も思います。ただ、今のままではほんのごとあの辺、朝晩のラッシュ、5回待たんばらんと、信号機だらけと。それから、まだその伊万里からのあれも、ますます車がふえておりますので、よろしく願いをしたいと思います。

大石部長、済みません。さっき済んだと言うたばってんが、橋下の永池の放水路にかかったあの橋、あれだけしっかり言われておったとこれ忘れよった。あそこの新しい橋ができました。今市長がおっしゃったように軟弱地盤で、あそこがずうっと側が下がりよるわけです。あそこに震度計でももしついたら、すごい記録が出ると思うんです。トレーラーなんかが行くときのバウンド、三夜待ちをしょって地震かというぐらいのバウンドはするそうですので、永池の放水路のあそこはまめに、アスファルトばこう流すだけでもよかと思うけんが、あの辺近所の方が、特に大型トレーラーが真夜中物すごいスピードで走っておりますので、あの辺のところを一応お願いしておきたいと思います。

次、企業誘致に入りたいと思います。

いよいよ財源ばどっからなりとも持ってこんばいかんという時代です。市長が一生懸命頑張っておられますが、企業誘致をするための工業用団地の現在はどがんなとつかをお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

前田企画部長

○前田企画部長〔登壇〕

お答えをしたいと思います。

企業誘致の状況でございますが、まずは武雄市内に紹介をできる適地がなかなか減っておりまして、現在については若木の工業団地が1区画ございます。これは2ヘクタールございます。それから、東川登町の袴野地区に、これはもともと進出する企業が工場を建てる前にこれは断念をされて、どこかいいところがあればということで現在、照会をしております。これも約2ヘクタールほどございます。

それから、武内町の方にも、これも民間所有の用地が約1ヘクタールございます。これを中心に今誘致活動をやっておるところでございます。そういうことで、なかなか市内に紹介できる場所がないということで、現在は調査をやっている状況でございます。

それから、企業誘致の状況でございますが、現在、数社と協議を重ねているという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

17番小池議員

○17番（小池一哉君）〔登壇〕

とりあえず今のところ、2町区画が二つあるだけということですね。一つは民間の所有ということでございます。この前、参議院議員の岩永先生から講義を受けたわけですが、もうサイクルの早かばいと。企業誘致が来るばいと言って、昔やったら田舎は土地がいっぱいありますから来てくださいと言うて見て、そして、四、五年してここを買うけんと言うて、そんな悠長な企業もあったばってん、もう違うですよと。もう電光石火よと。そがんとこに來手はなかよと、武雄はどがんなとやという逆に岩永先生から質問を受けたような次第でございます。

私もそがん思うわけですよ。企業が来る、じゃあ、武雄は土地がいっぱい安うしてあるけん、どこでん選んでくださいと。そがん言うて、今度は地主が簡単に売るわけなかですもんね。企業誘致の来るってわかっておるないば、企業の太かとの来ってないば、やっぱり地主さんも1円でん高う売りたいかけん、いろいろもめますし、それからまたボーリングしてこうしよう、やっぱり結構な時間がかかると思うわけですよ。そがん時間はなかよ、この御時世はと。ひところバブルの全盛時分はいろんな工業団地があちこちできて、今はやりのフリーズですか、そういうこともあったですが、ほとんどが大体埋まってきたというような状況の中で、今どがん考えでどういう、第2次の若木のような工業団地をつくる予定があるのかどうか聞きたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

確かに私のところにも直接もう進出をしたいという声がありますけれども、やっぱり土地がまずあるのかないのかというのを去年の11月から予算をつけていただいて、今調査をさせてもらっております。その上でここがやっぱり適しているということになれば、もう早く造成をしていきたいというふうに考えております。それで、やっぱり一点ちょっと私がどうしても国の政策で間違っているんじゃないかというのは、今企業で私のところに話があるのも、できればインターの近くに張りつきたい、あるいは498とか、そういった至便性の高いところに張りつきたいと。ほとんどこれは土地区画整理事業ば入れたら農地なんですね。だから、これは農水省の関係になりますし、私も申し上げたいと思いますけれども、やっぱり申請すると、特に土地区画整理事業ば入れたところは、一定の面積以上は、もう3年から5年かかるわけですね。これはもう国も改めてほしいというふうに思っています。基本的な地域政策

は我々首長と議会が責任を持ってやればいい話だと思いますし、農水政策は、もしそこに土地がインターの近くとか498の近くとかいうことであれば、その代替地を探すといったことに農政の転換をしていただければありがたいなというふうに考えておりますし、今後その方向に政策を進めていこうというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

17番小池議員

○17番（小池一哉君）〔登壇〕

とにかく今市長がおっしゃったように、それは来てください、土地はあるばってん場所はないかです、今から選んでください。ほんなごて盗人を捕まえて縄なえですもんね。わかんしゃあかね。泥棒を捕まえて縄をなえという、昔の年寄りさんたちからよう言われよったですよ。段取りの悪かという意味だと思います。泥棒ば捕まえてから縄ばないよっちゃ遅かばいと、段取りばようしとけよということで、来ていただく企業が泥棒という意味じゃなかけんで、これははっきりしとかんばいかんばってんが、やっぱり前もって準備ばしとけと、転ばぬ先の杖という意味だと思いますが、そういうこともありますので、やっぱり確かにもろ刃の剣かもしれんですよ。よかとけ一等地にして東京の企業が来てるっぎよかばってん、いつときはフリーズになったかもしれんばってん、やっぱり必ずそういう努力というのはどこの企業でも見てくれると思いますので、そがんせんぎんと、今までのままでほたっとなば、やっぱり最終的にまた住民税ば上げんばらんばい、水道料も、もう下ぐって言いよばってんどがんもされんばいとか、どがんもされんごた事態になると思いますので、やっぱり企業を誘致していただいて自主財源ば必ずどっかに求めていかんばいかんと思いますので。困ったね、あいどん。55分にやめろと言われよったばってんが、もうちょっと早まったようですが、市長の考えが大体わかりましたので、むだな話はやめたいと思います。どうもありがとうございました。